

第 18 回宮城県救急医療研究会・学術集会

■日 時： 平成 28 年 9 月 10 日（土）
午前 9 時 00 分～午後 4 時 30 分

■会 場： 艮陵会館
〒980-0873 仙台市青葉区広瀬町 3-34
Tel 022-227-2721

■会 長： 久志本 成樹
東北大学大学院医学系研究科
外科病態学講座救急医学分野 教授

つながる宮城、新たな救急の連繋へ

このたび、第 18 回を迎える宮城県救急医療研究会・学術集会を諸先輩のご指導の下に開催させていただくこととなりました。

救急医療とそのシステムにかかわる多くの職種の方々が一堂に会する貴重な機会であることから、みやぎの救急関連の“活動を知ること”、“現状を知ること”、そして、“これからの展開につなげること”をプログラムのテーマとしました。

● “活動を知ること”：パネルディスカッション「東日本大震災の経験から熊本地震被災地に何ができたのか」として、東日本大震災の経験をもとにどのような貢献ができたのか、今後、どのような活動をすべきか等、熊本地震への支援チームから、個別の詳細な活動報告ではなく、提言をお願いしています。

● “現状を知ること”：2016 年秋に運用を開始するドクターヘリ、多くの議論が行われてきた「特定行為に係る看護師の研修制度」、社会的問題であるてんかんとけいれんに関すること（ランチタイムセミナー）、そして、医療機関にとどまることなく病院前においても重要な感染対策（特別講演 佐々木淳一先生）を共有したいと思います。

● “これからの展開につなげること”：県内 6 救命救急センターと仙台消防局から、県内救急医療体制向上にむけた連携体制に関する提言を示し、これからの救急医療への実現を図ります。

同時に、本研究会は多くの救急医療関係者のみなさんにとって、その活動とメッセージをアピールする機会でもあります。

救急医療にかかわる多くの方々による前向き、建設的な発表と議論を交わす場となるべく企画しております。実りある学術集会となることを期待しています。

第 18 回宮城県救急医療研究会・学術集会会長

東北大学病院 久志本成樹

学術集会開催状況

学術集会会長	期日・開催場所	特別講演	シンポジウム
第1回	1999. 10. 16 フォレスト仙台	「救急医療体制の構築」 東北大学医学部附属病院救急部 篠澤洋太郎	「地域の特性に応じた救急医療体制」
第2回 古川市立病院 大庭正敏	2000. 10. 7 古川市民会館	「救急外来におけるプライマリケアについて」 福井医科大学救急医学講座 寺澤秀一	「多発外傷患者の現状と展望」 「小児救急医療の現状」
第3回 国立仙台病院 菊地 秀	2001. 9. 29 仙台市医師会館	「ワールドカップ災害医療に対する準備状況」 昭和大学病院救急医学科 杉本勝彦	「宮城県の救急医療におけるヘリコプター搬送の実態と展望」 「高齢者救急医療の現状」
第4回 仙台市立病院 小沼武英	2002. 9. 28 仙台市医師会館	「救急における感染症対策について」 東北大学医学系研究科内科病態学講座 感染症制御・検査診断学 賀来満夫	「薬物中毒について」 「児童虐待について」
第5回 古川市立病院 大庭正敏	2003. 9. 28 大崎生涯学習センター (パレットおおさき)	「外傷初期診療の標準化」 大阪府立泉州救命救急センター 横田純一郎	「宮城県のメディカルコントロール体制」
第6回 仙台医療センター 上之原広司	2004. 9. 25 仙台市医師会館	「大規模災害に対する準備」 国立病院機構災害医療センター 原口義座	「予想される宮城県沖地震に対する準備」 「高齢者救急の現状と問題」
第7回 仙台市立病院 小沼武英	2005. 10. 1 仙台市医師会館	「小児救急 その現状と課題」 仙台市立病院事業管理者 中川 洋	「メディカルコントロールの現状と問題点」
第8回 大崎市民病院 大庭正敏	2006. 9. 30 大崎生涯学習センター (パレットおおさき)	「宮城県にドクターヘリを配備するために」 救急ヘリ病院ネットワーク 国松孝二	「ドクターヘリによる救急医療の展望」 「熱傷治療について」
第9回 東北大学病院 篠澤洋太郎	2007. 9. 29 仙台市医師会館		「迫り来る宮城県沖地震に対する CERT 宮城モデルの構築にむけて」
第10回 仙台医療センター 上之原広司	2008. 9. 29 仙台市医師会館	「災害医療における日本 DMAT の役割」 山形県立中央病院救命救急センター 森野一真	「岩手・宮城内陸地震における災害医療の検証」

学術集会会長	期日・開催場所	特別講演	シンポジウム
第 11 回 仙台市立病院 亀山元信	2009. 9. 26 仙台市医師会館	「一般救急医療と連携した精神 科救急医療の重要性」 東京都健康長寿医療センター 栗田主一	「産科救急の現状と課題」
第 12 回 みやぎ県南中核病院 荒井啓晶	2010. 9. 26 えずこホール仙南 芸術文化センター	「災害時の医療体制 地域での 連携と病院機能の維持」 国立病院機構災害医療センター 堀内義仁	「災害対策マニュアルと災害 対策訓練」
第 13 回 石巻赤十字病院 石橋 悟	2011. 9. 25 石巻赤十字病院	「防ぎえる外傷死の回避と致命 的外傷の救命のために」 東北大学病院高度救命救急セン ター 久志本成樹	
第 14 回 気仙沼市立病院 尾形和則	2012. 9. 23 気仙沼市民会館はまなす ホール	「自衛隊の医療支援活動～特に 自衛隊仙台病院の活動と今後の 課題～」 自衛隊阪神病院 森崎善久	「東日本大震災からの教訓と 今後の災害への提言」
第 15 回 大崎市民病院 菅原知広	2013. 9. 29 大崎生涯学習センター (パレットおおさき)	「過去の災害から何を学ぶか」 兵庫県災害医療センター 鶴飼 卓	「今抱えている県内救急医療 体制の課題」
第 16 回 仙台オープン病院 茂泉義政	2014. 9. 28 仙台市急患センター (仙台市医師会館)	「高齢者救急の現状とピットフ ォール」 藤田保健衛生大学病院 岩田充永	「宮城県における高齢者救急 をどうするか？」
第 17 回 坂総合病院 郷古親夫	2015. 10. 11 多賀城市文化センター	「青森県立中央病院におけるド クターヘリの運行状況につい て」 青森県立中央病院救命救急セン ター総合診療部 會田悦久	「各職種ごとの救急医療の質 を高めるための取り組み」 「自施設で救急医療の質を高 めるための取り組みと研修医 教育」
第 18 回 東北大学病院 久志本 成樹	2016. 9. 10 艮陵会館	「救急外来とプレホスピタルに 感染対策」 慶應義塾大学病院救急科 佐々木淳一	「県内救命救急センターの連 携を図る」

ご案内とお願い

●参加者のみなさまへ

1. 受付は 8 時 30 分から開始いたします。
2. 参加費は 1,000 円です。受付でお支払後、参加証をお受け取り下さい。
3. 参加証には所属と氏名をご記入のうえ、会場内では必ずご着用ください。
4. クロークはご用意しておりませんので、お荷物の管理は各自でお願い致します。
5. ランチタイムセミナー：参加者全員への弁当のご用意はありません。事前にお弁当 1,000 円を申込まれた方は、受付にて代金をお支払いいただき引換券をお受け取り下さい。
6. 会場内での写真撮影・録音・録画は事前に許可を得た場合を除いて一切禁止します。
7. 発表中の入退場については、発表の迷惑にならないようにご配慮下さい。
8. 会場内での呼び出しは行いませんので、ご了承願います。

●発表者のみなさまへ

1. 一般演題
発表は 5 分以内、発表の準備・演者の交代及び質疑を含めて 1 演題 8 分の厳守をお願いします。発表時間超過は認められません。
2. その他のセッション
発表時間および総合討論は座長に一任しますが、時間厳守をお願いします。
3. 発表は PC のみとします。PC の操作は演者自身に行っていただきます。
Windows による発表：PC を準備しております。セッション開始 15 分前までにメディア受付へデータ登録をお願いします。
持ち込まれるメディアは、必ず各自ウィルスチェックを行ってください。
Mac による発表：PC の準備はありません。各自 PC の持ち込みをお願いします。
発表データの準備も発表時間を含みますのでご注意ください。
4. 利益相反・個人情報について
別紙をご参照下さい。

●座長のみなさまへ

1. 開始 10 分前までに受付をお済ませください。
2. セッション時間の厳守をお願いします。

発表演題に関する個人情報の取扱について

患者個人情報に抵触する可能性のある内容は、患者あるいはその代理人からインフォームド・コンセントを得た上で、患者個人情報が特定されないように十分留意して発表してください。個人情報が特定される発表は禁止します。

以下は外科関連学会協議会において採択された、症例報告を含む医学論文・学会研究会における学術発表における患者プライバシー保護に関する指針です。抄録の作成および演題発表においては、十分に配慮をお願いします。

「症例報告を含む医学論文及び学会研究会発表における 患者プライバシー保護に関する指針」

1. 患者個人の特定可能な氏名、入院番号、イニシャルまたは「呼び名」は記載しない。
2. 患者の住所は記載しない。但し、疾患の発生場所が病態等に関与する場合は区域までに限定して記載することを可とする。（宮城県、仙台市など）。
3. 日付は、臨床経過を知る上で必要となることが多いので、個人が特定できないと判断される場合は年月 までを記載してよい。
4. 他の情報と診療科名を照合することにより患者が特定され得る場合、診療科名は記載しない。
5. 既に他院などで診断・治療を受けている場合、その施設名ならびに所在地を記載しない。但し、救急医療などで搬送元の記載が不可欠の場合はこの限りではない。
6. 顔写真を提示する際には目を隠す。眼疾患の場合は、顔全体が分からないよう眼球のみの拡大写真とする。
7. 症例を特定できる生検、剖検、画像情報に含まれる番号などは削除する。
8. 以上の配慮をしても個人が特定化される可能性のある場合は、発表に関する同意を患者自身（または遺族か代理人、小児では保護者）から得るか、倫理委員会の承認を得る。
遺伝性疾患やヒトゲノム・遺伝子解析を伴う症例報告では「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理 指針」（文部科学省、厚生労働省及び経済産業省）
9. （平成 13 年 3 月 29 日、平成 16 年 12 月 28 日全部改正、平成 17 年 6 月 29 日一部改正、平成 20 年 12 月 1 日一部改正、平成 25 年 2 月 8 日全部改正、平成 26 年 11 月 25 日一部改正）による規定を遵守する。

平成 16 年 4 月 6 日（平成 21 年 12 月 2 日一部改正、平成 27 年 8 月 28 日一部改正）

発表演題に関する利益相反（conflict of interest : COI）の開示について

発表者は利益相反状態の自己申告を行ってください。この利益相反状態は、学術集会発表時のスライドに開示することとなります。

利益相反（conflict of interest : COI）開示のサンプルを参考にしてください。

宮城県救急医療研究会 利益相反の開示

筆頭発表者： ○○○○

演題発表に関連し、開示すべき利益相反
関係にある企業などはありません。

宮城県救急医療研究会 利益相反の開示

筆頭発表者： ○○○○

演題発表に関連し、開示すべき利益相反
関係にある企業などはありません。

会場および交通案内

場所：東北大学医学部良陵会館

仙台市青葉区広瀬町 3-34

TEL. 022-227-2721 FAX. 022-227-2725

交通案内

- 仙台市営地下鉄南北線 北四番丁駅 下車 徒歩10分

- 仙台市営バス（せんだい市バス）

839・840・860・866・870・877・880・888・899 系統

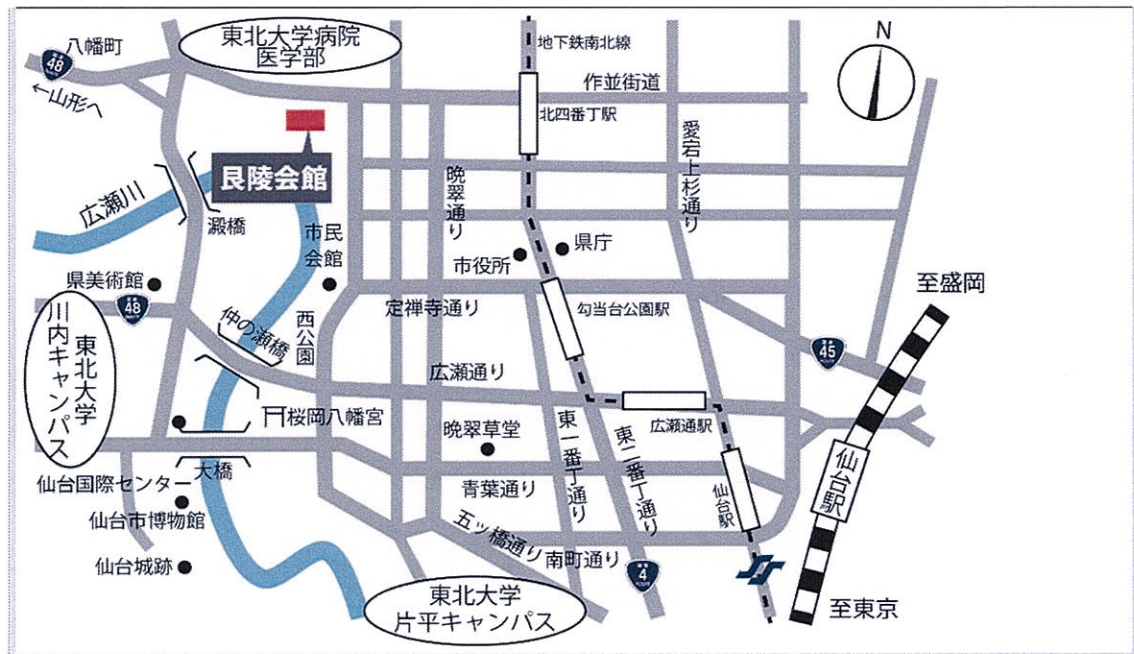
東北大学病院前 下車徒歩1分

(それ以外の系統では、星陵キャンパス東側のバス停になりますので、ご注意ください)

または 交通局東北大学病院前 下車徒歩3分

注意事項

- ・会場へは公共交通機関のご利用をお願い致します。
自動車でお越しの場合は、近隣の有料駐車場をご利用下さい。



第 18 回 宮城県救急医療研究会・学術集会 日程表

日時：平成 28 年 9 月 10 日(土)

会場：東北大学医学部良陵会館記念ホール

時間	内容
8:30	受付開始
8:55	開会の辞
9:00-9:40	一般演題 1:救急医療体制と受け入れ 座長： 仙台オープン病院 平賀雅樹 石巻赤十字病院 澁谷多佳子
9:40-11:00	パネルディスカッション： 東日本大震災の経験から熊本地震被災地に何ができたのか 座長：大崎市民病院 救命救急センター 山内 聡 PD-1 福島県立医科大学 佐藤めぐみ PD-2 東北大学病院総合地域医療教育支援部 石井 正 PD-3 東北大学病院精神科 松本和紀 PD-4 石巻薬剤師会 丹野佳郎 PD-5 宮城県危機対策課 松平幸雄
11:00-11:45	特別講演：救急医療現場における感染症と感染対策 座長 とよま整形外科クリニック 登米祐也 演者 慶応義塾大学医学部救急医学 佐々木淳一
11:55-12:35	ランチタイムセミナー： 救急現場で遭遇する意識障害～『けいれん』と『てんかん』を中心に～ 座長 東北大学大学院医学系研究科 久志本成樹 演者 日本医科大学大学院医学研究科救急医学分野 横堀將司 共催 日本光電株式会社
12:35-12:45	会員総会
13:00-13:30	話題を知る 座長 仙台医療センター 上之原広司 ・SS-1 ドクターヘリ： 仙台医療センター 山田康雄 ・SS-2 「特定行為に係る看護師の研修制度」と救急医療 東北大学病院 安彦 武

13:30-14:40	シンポジウム：県内救命救急センターの連携を図る 座長：仙台市立病院 亀山元信 東北大学病院 久志本成樹 S-1 仙台医療センター：山田康雄 S-2 仙台市立病院：村田祐二 S-3 東北大学病院：野村亮介 S-4 石巻赤十字病院：小林道生 S-5 大崎市民病院：山内 聡 S-6 みやぎ県南中核病院：古川 宗 コメンテーター 仙台市消防局警防部救急課 阿部和彦
14:40-15:00	コーヒーブレイク
15:00-15:32	一般演題 2：症例報告 座長 東北医科薬科大学病院 遠藤智之 東北労災病院 武藤満完
15:32-16:12	一般演題 3：救急事例と救急看護 座長 仙台市消防局 森 俊三 東北大学病院 井上昌子 石巻赤十字病院 石橋 悟
16:15	閉会の辞
16:20	終了

プログラム

第 18 回宮城県救急医療研究会・学術集会プログラム

発表者職種：医師（D）、看護師（N）、救急隊員（E）、その他（O）

一般演題 1：救急医療体制と受け入れ 9：00～9：40

座長：仙台オープン病院 平賀 雅樹
石巻赤十字病院 澁谷 多佳子

- 1－1 東北医科薬科大学病院救急センターの立ち上げ
～新たな特定看護師・看護師体制の構築～

東北医科薬科大学病院 救急科 中川 恵子（N）

- 1－2 大崎圏域における救急医療体制の現状と課題

大崎地域広域行政事務組合 古川消防署 小野 幸絵（E）

- 1－3 東北医科薬科大学病院救急科の船出～4－7月の現況報告～

東北医科薬科大学病院 救急科 遠藤 智之（D）

- 1－4 院内トリアージの質の向上への取り組み～専属トリアージナース配置を試みて～

仙台市立病院 救命救急センター 星川 美穂（N）

- 1－5 救急外来看護師の診療科別不安・苦手意識に関するアンケート調査報告

大崎市民病院 救命救急センター 曾根 和美（N）

東日本大震災の経験から熊本地震被災地に何ができただのか

座長：大崎市民病院 山内 聡

PD－1 熊本地震における活動 老人ホーム避難を経験して

福島県立医科大学附属病院 佐藤 めぐみ (N)

PD－2 東日本大震災対応を踏まえた熊本地震医療救護支援の経験

東北大学病院総合地域医療教育支援部 石井 正 (D)

PD－3 熊本地震におけるメンタルヘルス領域での支援

～宮城県DPATにおける支援経験より～

東北大学病院精神科 松本 和紀 (D)

PD－4 大規模自然災害における薬剤師の役割～東日本大震災、熊本地震の報告～

石巻薬剤師会 丹野 佳郎 (O)

PD－5 熊本地震における宮城県の対応

～東日本大震災の経験から熊本地震被災地に何ができただのか～

宮城県総務部危機対策課 松平 幸雄 (O)

特別講演

11:00～11:45

座長：とよま整形外科クリニック 登米 祐也

救急医療現場における感染症と感染対策

慶應義塾大学医学部 救急医学 佐々木 淳一 (D)

ランチタイムセミナー

11:55～12:35

座長：東北大学大学院医学系研究科 久志本 成樹

救急現場で遭遇する意識障害～『けいれん』と『てんかん』を中心に～

日本医科大学大学院 医学研究科 救急医学分野 横堀 将司 (D)

話題を知る

13:00～13:30

座長：仙台医療センター 上之原 広司

SS-1 ドクターヘリ～宮城県ドクターヘリ、まもなく就航～

仙台医療センター 救命救急センター 山田 康雄 (D)

SS-2 「特定行為に係る看護師の研修制度」と救急医療

東北大学病院 高度救命救急センター 安彦 武 (N)

県内救命救急センターの連携を図る

座長：仙台市立病院 亀山 元信
東北大学病院 久志本 成樹

S-1	仙台医療センター	救命救急センター	山田 康雄 (D)
S-2	仙台市立病院	救命救急センター	村田 祐二 (D)
S-3	東北大学病院	高度救命救急センター	野村 亮介 (D)
S-4	石巻赤十字病院	救命救急センター	小林 道生 (D)
S-5	大崎市民病院	救命救急センター	山内 聡 (D)
S-6	みやぎ県南中核病院	救命救急センター	古川 宗 (D)

コメンテーター 仙台市消防局 警防部救急課 阿部 和彦 (E)

座長：東北医科薬科大学病院 遠藤 智之
東北労災病院 武藤 満完

2－1 イヌサフラン誤食によるコルヒチン中毒の1例

東北大学病院 高度救命救急センター 小林 正和 (D)

2－2 意識障害で来院し、pHとアニオンギャップが共に正常値を呈したエタノール中毒の一例

大崎市民病院 救急科 鍋島 奈津美 (D)

2－3 縊首未遂後、軟部組織高度腫脹による上気道閉塞と、後方循環領域の脳梗塞を認めた一例

仙台医療センター 救急科 三宅 のどか (D)

2－4 早期腹臥位療法が奏功した敗血症性ショックを伴う重症ARDSの1例

東北大学病院 高度救命救急センター 横川 裕大 (D)

座長： 仙 台 市 消 防 局 森 俊 三
 東 北 大 学 病 院 井 上 昌 子
 石 巻 赤 十 字 病 院 石 橋 悟

3－1 外傷によりショックを呈した傷病者に輸液を実施し、救命に至った症例について
 塩釜地区消防事務組合消防本部七ヶ浜消防署 福田 知之 (E)

3－2 特異的な方法の自死企図 2 症例について
 仙台市消防局 宮城消防署 救急係 小野寺 涼 (E)

3－3 患者と家族が話せるように
 仙台医療センター 救命救急センター 神 茜 (N)

3－4 救急外来スタッフの家族ケアの向上に向けての取り組み
 仙台オープン病院 救急科 小高 泰美 (N)

3－5 術後 ICU へ入室する患者への術前術後の関わり
 仙台医療センター 救命救急センター 根廻 麻美 (N)